

# 血液検査(採血)を受けられる患者さんへ



採血とは、病気の診断や病状を把握するために、体の中を流れている血液を採取する、医療行為です

当院では、国家資格を持つ臨床検査技師と看護師が採血を担当しています。検査は十分な管理体制のもと、常に細心の注意を払って確実に安全に実施しています。



安心安全な採血の実施のため、次のことにご協力ください。

## 氏名の確認

採血の取り間違い防止のため、ご自分のお名前を採血担当スタッフにお伝えください。



## 圧迫止血の際の注意

針を刺した場所は**揉まない**ようにご注意ください。



## 採血前の確認

次の項目に当てはまる方は、事前にスタッフにお申し出ください。



次のような場合、部位を変えて再度採血をさせていただきます。あらかじめ、ご了承ください。

- ・採血針を刺しても採血が出来ない
- ・1回の採血で必要な採血量が採取できない

※まれに採血に伴う合併症が起きることがあります。

詳しくは、次の「採血における合併症」をご参照ください。



「採血における合併症」には、次のようなものがあります



## 止血困難・皮下血腫

止血が不十分な場合などに起こります。採血後の圧迫止血は十分行いましょう。



## アレルギー

採血のアルコール消毒液、テープ、絆創膏、スタッフの手袋などでアレルギー症状(かゆみ・発疹など)が出る場合があります。



## 神経損傷

約1万～10万回に1回の割合で採血後も手指に痛みやしびれなどが続くことがあります。痛み、しびれが続く場合はお申し出ください。



## 血管迷走神経反応

神経が興奮し、血圧が低下するため、めまい・気分不良・意識消失などを引き起こすことがあります。

合併症が発生しないよう十分に注意しますが、万一発生した場合は速やかに最善の処置を行います。なおその際の医療費は通常の保険診療になりますのでご了承ください。合併症についてのご不明点などは、主治医または採血担当スタッフにお尋ねください。

円滑に採血を行うため、

皆さまのご協力を何卒よろしくお願いいたします



| 表示名      | 項目名                 | 当院基準範囲<br>(又はカットオフ値)           | 単位             | 備考     | 解 説                                                                                                                        |
|----------|---------------------|--------------------------------|----------------|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生化学検査    |                     |                                |                |        |                                                                                                                            |
| TP       | 総タンパク               | 6.6～8.1                        | g/dL           | ※      | 総タンパクは血液中のタンパク質の総量をあらわします。アルブミンは代表的なタンパク質の一つで、両者ともに栄養状態の指標になります。                                                           |
| Alb      | アルブミン               | 4.1～5.1                        | g/dL           | ※      |                                                                                                                            |
| UN       | 尿素窒素                | 8～20                           | mg/dL          | ※      | 腎臓の働きをみる検査です。腎臓から排泄される老廃物で、腎機能が悪くなると増加します。クレアチニン値を使用して、推算糸球体濾過量（eGFR）として評価する場合があります。これは老廃物を排泄する能力の指標になります。能力が低下すると、値が低下します |
| Cre      | クレアチニン              | 男性：0.65～1.07<br>女性：0.46～0.79   | mg/dL          | ※      |                                                                                                                            |
| UA       | 尿酸                  | 7.0                            | mg/dL以下        | ※      | 老廃物の一種で、高値になると痛風になる危険が増えます。                                                                                                |
| Na       | ナトリウム               | 138～ 145                       | mmol/L         | ※      | 血液中の電解質の濃度です。腎臓の病気やホルモンの異常、脱水などで増加したり、減少したりします。                                                                            |
| K        | カリウム                | 3.6～ 4.8                       | mmol/L         | ※      |                                                                                                                            |
| Cl       | クロール                | 101～ 108                       | mmol/L         | ※      |                                                                                                                            |
| Ca       | カルシウム               | 8.8～10.1                       | mg/dL          | ※      |                                                                                                                            |
| IP       | 無機リン                | 2.7～ 4.6                       | mg/dL          | ※      |                                                                                                                            |
| Mg       | マグネシウム              | 1.8～ 2.4                       | mg/dL          |        |                                                                                                                            |
| Fe       | 血清鉄                 | 40～188                         | μg/dL          | ※      | 鉄が低値を示す場合は鉄欠乏性貧血などが考えられます。鉄とUIBCの増減のパターンは、鉄欠乏性貧血の診断に役立ちます。                                                                 |
| UIBC     | 不飽和鉄結合能             | 男性：170～250<br>女性：180～270       | μg/dL          |        |                                                                                                                            |
| フェリチン    | フェリチン               | 男性：50.0～200.0<br>女性：12.0～ 60.0 | ng/mL<br>ng/mL |        | フェリチンは鉄と結合して体内に貯蔵するタンパク質で、鉄欠乏性貧血で低値となりますが、悪性腫瘍などで高値となることがあります。                                                             |
| 中性脂肪     | 中性脂肪                | 35～149                         | mg/dL          |        | 総コレステロール、LDLコレステロール（悪玉コレステロール）、中性脂肪が増加した場合は脂質異常症といいます。HDLコレステロールは善玉コレステロールと呼ばれ、この値が低くなると動脈硬化の危険が大きくなります。                   |
| 総コレステロール | 総コレステロール            | 125～219                        | mg/dL          |        |                                                                                                                            |
| HDL-C    | HDLコレステロール          | 40                             | mg/dL以上        |        |                                                                                                                            |
| LDL-C    | LDLコレステロール          | 140                            | mg/dL未満        |        |                                                                                                                            |
| Glu      | 血糖                  | 73～109                         | mg/dL          | ※      | 血液中のぶどう糖（グルコース）濃度を示します。糖尿病で高値になります。                                                                                        |
| HbA1c    | ヘモグロビンA1C           | 4.9～6.0                        | %（NGSP 値）      | ※      | 過去 1～2 ヶ月間の平均血糖値を反映しているので、糖尿病の患者さんの長期の血糖のコントロール状態がわかります。ある時点の血糖値が正常でもヘモグロビンA1Cの値が高いと、糖尿病が疑われます。                            |
| CRP      | C反応性蛋白              | 0.00～0.14                      | mg/dL          | ※      | 感染症などで体内に炎症があると増加します。                                                                                                      |
| 血沈-30    | 赤血球沈降速度30分値         | (設定なし)                         |                |        | 血液中の赤血球が沈んでいく速さをみる検査で、感染症などの炎症性疾患、膠原病の一部、いくつかの疾患で増加します。                                                                    |
| 血沈-60    | 赤血球沈降速度60分値         | 男性：2～10<br>女性：3～15             | mm<br>mm       |        |                                                                                                                            |
| T-Bil    | 総ビリルビン              | 0.4～1.5                        | mg/dL          | ※      | 黄疸の程度を示します。肝臓・胆道の病気、ある種の貧血などで増加します。抱合型ビリルビンは従来、直接ビリルビンと呼ばれていた項目に相当します。                                                     |
| C-Bil    | 抱合型ビリルビン            | 0.0～0.2                        | mg/dL          |        |                                                                                                                            |
| NH3      | アンモニア               | 12～66                          | μg/dL          |        | 肝臓の機能が著しく低下した場合や肝性脳症などで高値になります。                                                                                            |
| AST      | アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ | 13～30                          | U/L            | ※      | 肝臓の細胞が壊れると増加するため、肝細胞の障害の程度を示します。肝臓以外の病気でも増えることがあります。                                                                       |
| ALT      | アラニンアミノトランスフェラーゼ    | 男性：10～42<br>女性： 7～23           | U/L<br>U/L     | ※<br>※ |                                                                                                                            |
| LD       | 乳酸脱水素酵素             | 124～222                        | U/L            | ※      |                                                                                                                            |
| ALP      | アルカリホスファターゼ         | 38～113                         | U/L            |        | 肝臓・胆のう・膵臓などの病気で胆汁の流れが悪くなったとき増加します。ALPは骨の病気などでも増加することがあります。また、γ-GTは習慣飲酒などによっても増加します。                                        |
| γ-GT     | γ グルタミルトランスフェラーゼ    | 男性：13～64<br>女性： 9～32           | U/L<br>U/L     | ※<br>※ |                                                                                                                            |
| ChE      | コリンエステラーゼ           | 男性：240～486<br>女性：201～421       | U/L<br>U/L     | ※<br>※ | 肝臓のタンパク質をつくる働きの指標です。肝硬変では低下し、脂肪肝などでは増加します。                                                                                 |
| AMY      | α アミラーゼ             | 44～132                         | U/L            | ※      | 膵液や唾液に含まれる酵素で、膵臓や唾液腺の病気で増加します。                                                                                             |
| CK       | クレアチンキナーゼ           | 男性：59～248<br>女性：41～153         | U/L<br>U/L     | ※<br>※ | 筋肉に含まれる酵素で、心筋梗塞や筋肉の病気で増加します。運動後や、筋肉注射を受けた後にも増加します。                                                                         |

※共用基準範囲：全国共通の基準範囲です。採用している施設であれば、どの医療機関で検査を受けても、同じ判断が可能となります。

| 表示名        | 項目名                | 当院基準範囲<br>(又はカットオフ値)         | 単位      | 備考 | 解 説                                                                                                                                                               |
|------------|--------------------|------------------------------|---------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 血液・凝固線溶    |                    |                              |         |    |                                                                                                                                                                   |
| 血算         |                    |                              |         |    |                                                                                                                                                                   |
| WBC        | 白血球数               | 3.3～8.6×10 <sup>3</sup>      | 個/μL    |    | 好中球やリンパ球などの白血球の総数を示しています。感染症や血液の病気で増加もしくは減少します。                                                                                                                   |
| RBC        | 赤血球数               | 男性：4.35～5.55×10 <sup>6</sup> | 個/μL    | ※  | ヘモグロビンは赤血球に含まれる酸素を運ぶためのタンパク質、ヘマトクリットは血液の中で赤血球が占める容積の割合です。3つとも血液中の赤血球の量をしめす検査で、貧血では低下します。一方、これらが増加している場合は多血症が疑われます。                                                |
|            |                    | 女性：3.86～4.92×10 <sup>6</sup> | 個/μL    | ※  |                                                                                                                                                                   |
| Hb         | ヘモグロビン濃度（血色素量）     | 男性：13.7～16.8                 | g/dL    | ※  |                                                                                                                                                                   |
|            |                    | 女性：11.6～14.8                 | g/dL    | ※  |                                                                                                                                                                   |
| Ht         | ヘマトクリット値           | 男性：40.7～50.1                 | %       | ※  |                                                                                                                                                                   |
|            |                    | 女性：35.1～44.4                 | %       | ※  |                                                                                                                                                                   |
| MCV        | 平均赤血球容積            | 83.6～98.2                    | fL      | ※  | MCVは赤血球の大きさ、MCH、MCHCは赤血球の色の濃さをあらわします。これらは貧血を分類するのに役立ちます。                                                                                                          |
| MCH        | 平均赤血球ヘモグロビン量       | 27.5～33.2                    | pg      | ※  |                                                                                                                                                                   |
| MCHC       | 平均赤血球ヘモグロビン濃度      | 31.7～35.3                    | %       | ※  |                                                                                                                                                                   |
| PLT        | 血小板数               | 158～348×10 <sup>3</sup>      | 個/μL    | ※  | 血小板は出血した時、血栓を作って血を止める働きをします。極端に数が少ないと出血しやすくなります。血液の病気で増加もしくは減少します。                                                                                                |
| 網赤血球       |                    |                              |         |    |                                                                                                                                                                   |
| Ret        | 網状赤血球（レチクロ）        | 0.76～2.22                    | %       |    | できたてホヤホヤの若い赤血球の、赤血球全体に占める割合をあらわします。 貧血の診断に役立ちます。                                                                                                                  |
| 末血像（白血球分画） |                    |                              |         |    |                                                                                                                                                                   |
| Band       | 好中球（桿状核球）比率        | 3～ 6                         | %       |    | 白血球にはいろいろな種類がありますが、それらの比率を表しています。一般に、好中球は細菌感染症で増加し、リンパ球はウイルス感染症で増加します。血液の病気で増えたり減ったりします。好酸球はアレルギーなどで増加します。また、これらの比率の増減の他、細胞の形の異常などの情報は、血液の病気をはじめいろいろな病気の診断に役立ちます。 |
| Seg        | 好中球（分葉核球）比率        | 45～55                        | %       |    |                                                                                                                                                                   |
| Eosino     | 好酸球比率              | 1～ 5                         | %       |    |                                                                                                                                                                   |
| Baso       | 好塩基球比率             | 0～ 1                         | %       |    |                                                                                                                                                                   |
| Mono       | 単球比率               | 4～ 7                         | %       |    |                                                                                                                                                                   |
| Lymph      | リンパ球比率             | 25～45                        | %       |    |                                                                                                                                                                   |
| リンパ球サブセット  |                    |                              |         |    |                                                                                                                                                                   |
| T cell%    | T細胞比率              |                              |         |    | リンパ球の種類を細かく調べる検査です。血液の病気や、後天性免疫不全症候群（AIDS）などの免疫の病気の診断に役立ちます。                                                                                                      |
| B cell%    | B細胞比率              | 57.7～84.4                    | %       |    |                                                                                                                                                                   |
| T-CD4%     | ヘルパー・インデューサーT細胞比率  | 5.7～24.9                     | %       |    |                                                                                                                                                                   |
| T-CD8%     | サプレッサー・細胞傷害性T細胞比率  | 33.6～64.8                    | %       |    |                                                                                                                                                                   |
| 4/8 Ratio  | ヘルパーT/サプレッサーT細胞比率  | 13.0～37.6                    |         |    |                                                                                                                                                                   |
| LY#        | リンパ球数              |                              |         |    |                                                                                                                                                                   |
| 凝固線溶       |                    |                              |         |    |                                                                                                                                                                   |
| PT-sec     | プロトロンビン時間（秒）       | 10.2～12.7                    | 秒       |    | APTTと組み合わせることで、血液凝固（出血時に自然に血液が固まるしくみ）の異常の原因を調べるのに役立ちます。延長している場合、出血しやすい（血が止まりにくい）状態といえます。ワーファリン治療時の薬の量の調節に必要な検査です。また肝機能が悪い場合、異常値をとりやすくなるため肝機能の指標にもなります。            |
| PT-%       | プロトロンビン時間（％）       | 73～ 118                      | %       |    |                                                                                                                                                                   |
| PT-INR     | プロトロンビン時間（国際標準比）   | 0.90～1.14                    |         |    |                                                                                                                                                                   |
| APTT-sec   | 活性化部分トロンボプラスチン時間   | 24.3～34.6                    | 秒       |    | PTと組み合わせることにより、血液凝固（出血時に自然に血液が固まるしくみ）の異常の原因を調べるのに役立ちます。延長している場合、出血しやすい（血が止まりにくい）状態であることがわかります。                                                                    |
| フィブリノゲン    | フィブリノゲン            | 181～378                      | mg/dL   |    | 血液凝固の異常をきたす病気などで減少します。                                                                                                                                            |
| FDP        | フィブリン・フィブリノーゲン分解産物 | 3.9                          | μg/mL以下 |    | 血栓症などの血液凝固の異常をきたす病気で増加します。血栓溶解療法の経過観察に役立ちます。                                                                                                                      |
| Dダイマー      | Dダイマー              | 1.1                          | μg/mL以下 |    | 血栓症などの血液凝固の異常をきたす病気で増加します。血栓溶解療法の経過観察に役立ちます。                                                                                                                      |
| アンチトロンビンⅢ  | アンチトロンビンⅢ          | 80～130                       | %       |    | 血液凝固の異常をきたす病気の診断に役立ちます。血栓症などで減少します。                                                                                                                               |

※共用基準範囲：全国共通の基準範囲です。採用している施設であれば、どの医療機関で検査を受けても、同じ判断が可能となります。

| 表示名        | 項目名           | 当院基準範囲<br>(又はカットオフ値)                                             | 単位                                                    | 備考         | 解 説                                                                           |
|------------|---------------|------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 尿・髄液・(便)   |               |                                                                  |                                                       |            |                                                                               |
| 尿一般        |               |                                                                  |                                                       |            |                                                                               |
| pH         |               | 4.5～7.5                                                          | 4.5～7.5                                               |            | 通常尿は弱酸性です。                                                                    |
| 比重         | 比重            | 1.005～1.030                                                      | —                                                     |            | 腎臓の希釈する力・濃縮する力をみることができます。水分の摂取量や発汗などで変動します。                                   |
| 色調         | 色調            | 淡黄色～黄色                                                           | —                                                     |            | 麦わら黄色から淡黄褐色(コハク色)ですが、色調の濃さは比重とほぼ並行します。腎臓で作られるウロビリンの色素や投与薬物の影響で変化します。          |
| 混濁         | 混濁            | 透明                                                               | —                                                     |            | 尿の濁りを評価しています。粘液や尿中の塩類、血球、細胞、細菌、特殊な蛋白により濁りが生じることがあります。                         |
| ビリルビン      | ビリルビン         | —                                                                | —                                                     |            | 肝臓の病気などでビリルビンが増えている時に陽性もしくは増加を示します。                                           |
| ウロビリノゲン    | ウロビリノゲン       | NORMAL                                                           | NORMAL                                                |            |                                                                               |
| ケトン体       | ケトン体          | —                                                                | —                                                     |            | 飢餓状態や糖尿病の悪化などで陽性になります。                                                        |
| 尿蛋白        | 尿蛋白           | —                                                                | —                                                     |            | 主に腎臓や膀胱などの病気で陽性になります。                                                         |
| グルコース      | 尿糖            | —                                                                | —                                                     |            | 糖尿病などで陽性となりますが、陰性だからといって糖尿病でないとはいえません。                                        |
| 亜硝酸塩       | 亜硝酸塩          | —                                                                | —                                                     |            | 尿路感染症があると陽性になります。                                                             |
| 尿沈渣        |               |                                                                  |                                                       |            |                                                                               |
| 赤血球        | 赤血球           | 1～4                                                              | 個/HPF以下                                               |            | 腎臓や膀胱などの状態がわかります。尿中には健康な方でもいろいろな成分が排泄され、それぞれの成分の医学的な意義は他の検査結果と併せて判定されます。      |
| 白血球        | 白血球           | 1～4                                                              | 個/HPF以下                                               |            |                                                                               |
| 扁平上皮       | 扁平上皮          | 出現量にかかわらず基準範囲内                                                   |                                                       |            |                                                                               |
| 尿路上皮       | 尿路上皮          | 1                                                                | /HPF未満                                                |            |                                                                               |
| 尿細管上皮      | 尿細管上皮         | 1                                                                | /HPF未満                                                |            |                                                                               |
| 細菌         | 細菌            | +1                                                               | 以下                                                    |            |                                                                               |
| 硝子円柱       | 硝子円柱          | 1                                                                | 個/LPF未満                                               |            |                                                                               |
| 免疫・血清      |               |                                                                  |                                                       |            |                                                                               |
| プロカルシトニン   | プロカルシトニン      | 0.25                                                             | ng/mL未満                                               | (抗菌薬投与判断値) | 細菌感染症のマーカーです。全身性の細菌感染で上昇します。                                                  |
| TP抗体       | TP抗体          | —                                                                |                                                       |            | 梅毒に感染しているかがわかります。                                                             |
| HTLV- I/II | HTLV- I・II 抗体 | —                                                                |                                                       |            | 成人T細胞性白血病ウイルスに感染しているかがわかります。                                                  |
| HIV-Ag・Ab  | HIV-抗原・抗体     | —                                                                |                                                       |            | ヒト免疫不全ウイルスに感染しているかがわかります。                                                     |
| HBsAg定性    | HBs抗原         | —                                                                |                                                       |            | 現在B型肝炎ウイルスに感染しているかがわかります。                                                     |
| HBs抗体      | HBs抗体         | — 10.0                                                           | mIU/mL未満                                              |            | 過去にB型肝炎ウイルスに感染したことがあるか、B型肝炎ワクチンを接種した場合に陽性になります。                               |
| HCV抗体      | HCV抗体         | —：1.0<br>陽性：1.0<br>低力価陽性：1.0～4.9<br>中力価陽性：5.0～49.9<br>高力価陽性：50.0 | C.O.I.未満<br>C.O.I. 以上<br>C.O.I.<br>C.O.I.<br>C.O.I. ～ |            | 現在C型肝炎ウイルスに感染しているか、または過去に感染したことがあるかがわかります。                                    |
| IgG        | 免疫グロブリンG      | 861～1747                                                         | mg/dL                                                 | ※          | 免疫グロブリンは免疫に関わるタンパク質で、感染症、免疫の病気、血液の病気などの診断に役立ちます。                              |
| IgA        | 免疫グロブリンA      | 93～ 393                                                          | mg/dL                                                 | ※          |                                                                               |
| IgM        | 免疫グロブリンM      | 男性： 33～ 183<br>女性： 50～ 269                                       | mg/dL                                                 | ※          |                                                                               |
| IgE        | 免疫グロブリンE      | 360.9                                                            | IU/mL以下                                               |            |                                                                               |
| C3         | 補体第3成分        | 73～138                                                           | mg/dL                                                 | ※          | 補体は免疫に関するタンパク質でC3、C4はその代表的な2つです。CH50は補体の働きの総和をあらわします。免疫の病気や感染症などで増えたり減ったりします。 |
| C4         | 補体第4成分        | 11～ 31                                                           | mg/dL                                                 | ※          |                                                                               |
| CH50       | 血清補体価         | 30～ 46                                                           | CH50/mL                                               |            |                                                                               |
| RF         | リウマトイド因子      | 15                                                               | IU/mL以下                                               |            | 関節リウマチで増加しますが、そのほかの病気などでも増加します。これらの検査が陽性だからといって関節リウマチとは判断できません。               |
| 抗核抗体/抗体価   | 抗核抗体          | —：40                                                             | 倍以下                                                   |            | 免疫の病気では自分の体の細胞を攻撃してしまう自己抗体が現れます。抗核抗体は自己抗体の代表的なもので、自己免疫性の病気で陽性となります。           |

※共用基準範囲：全国共通の基準範囲です。採用している施設であれば、どの医療機関で検査を受けても、同じ判断が可能となります。

| 表示名     | 項目名                  | 当院基準範囲<br>(又はカットオフ値)           | 単位                 | 備考 | 解 説                                                                                    |
|---------|----------------------|--------------------------------|--------------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 腫瘍・内分泌  |                      |                                |                    |    |                                                                                        |
| ミオグロビン  | ミオグロビン               | 男性：154.9<br>女性：106.0           | ng/mL以下<br>ng/mL以下 |    | 心筋梗塞や筋肉の病気で増加します。                                                                      |
| トロポニン I | 心筋トロポニン I            | 男性：34.2<br>女性：15.6             | pg/mL以下<br>pg/mL以下 |    | 心筋梗塞で増加します。                                                                            |
| CK-MB   | クレアチンキナーゼMB          | 男性： 5.2<br>女性： 3.1             | ng/mL以下<br>ng/mL以下 |    |                                                                                        |
| BNP     | ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド      | 18.4                           | pg/mL以下            |    | 心臓に負荷がかかると高値となり、心不全などの診断に役立ちます。高齢者や激しい運動後でも高値となります。                                    |
| KL-6    | KL-6                 | 500                            | U/mL未満             |    | 間質性肺炎のとき高値になります。                                                                       |
| プロラクチン  | プロラクチン（乳汁分泌ホルモン）     | 男性：3.46～19.40<br>女性：5.18～26.53 | ng/mL<br>ng/mL     |    | 脳（下垂体）から分泌されるホルモンの1つです。下垂体の病気の診断に役立ちます。                                                |
| インスリン   | インスリン                | 1.2～9.0                        | μU/mL              |    | 血糖値を調節するホルモンです。糖尿病の診断に役立ちます。                                                           |
| TSH     | 甲状腺刺激ホルモン            | 0.350～4.940                    | μIU/mL             |    | 遊離 T3と遊離 T4は甲状腺で作られるホルモンで、甲状腺の病気の鑑別に役立ち、脳（下垂体）から分泌されるホルモンであるTSHは、甲状腺ホルモンの産生を調節します。     |
| FT3     | フリー T3（遊離トリヨードサイロニン） | 1.68～ 3.67                     | pg/mL              |    |                                                                                        |
| FT4     | フリー T4（遊離サイロキシン）     | 0.70～ 1.48                     | ng/dL              |    |                                                                                        |
| ACTH    | 副腎皮質刺激ホルモン           | 7.2～63.3                       | pg/mL              |    | 副腎皮質刺激ホルモンは脳（下垂体）から分泌されるホルモンの1つです。コルチゾールは副腎から分泌されるホルモンです。これらは副腎の病気の鑑別に役立ちます。           |
| コルチゾール  | コルチゾール               | 午前：7.07～19.6<br>午後：2.96～9.77   | μg/dL<br>μg/dL     |    |                                                                                        |
| AFP     | α フェトプロテイン           | 6.92                           | ng/mL以下            |    | 肝臓癌の腫瘍マーカーです。AFPは慢性肝炎や肝硬変でも軽度の増加がみられるため、AFP-3分画の測定で癌による増加かどうかわかります。初期の癌では増加しないことが多いです。 |
| PIVKA-2 | PIVKA-2              | 40                             | mAU/mL未満           |    |                                                                                        |
| AFP-L3  | AFP-L3分画             | 10.0                           | %未満                |    |                                                                                        |
| CEA     | 癌胎児性抗原               | 4.76                           | ng/mL以下            |    | 胃癌、大腸癌、肺癌の腫瘍マーカーです。初期の癌では増加しないことが多く、長期の喫煙で軽度の増加がみられます。                                 |
| CA19-9  | 糖鎖抗原19-9             | 35.43                          | U/mL以下             |    | 膵臓癌や胆のう癌などの腫瘍マーカーです。初期の癌では増加しないことが多いです。良性の肝・胆・膵疾患でも増加することがあります。                        |
| CA125   | 糖鎖抗原125              | 26.94                          | U/mL以下             |    | 卵巣癌などの腫瘍マーカーです。初期の癌では増加しないことが多いです。子宮内膜炎や月経、妊娠などでも増加します。                                |
| CA15-3  | 糖鎖抗原15-3             | 23.73                          | U/mL以下             |    | 乳癌などの腫瘍マーカーです。初期の癌では増加しないことが多いです。                                                      |
| CYFRA   | シフラ（サイトケラチン19フラグメント） | 2.1                            | ng/mL以下            |    | 肺癌の腫瘍マーカーです。CYFRAは特に扁平上皮癌で、ProGRPは小細胞癌で増加します。初期の癌では増加しないことが多いです。                       |
| ProGRP  | ガストリン放出ペプチド前駆体       | 74.7                           | pg/mL以下            |    |                                                                                        |
| PSA     | 前立腺特異抗原              | 4.00                           | ng/mL以下            |    | 前立腺癌の腫瘍マーカーです。良性の前立腺肥大と見分けるためにF / T 比が役立ちます。                                           |
| F-PSA   | 遊離型前立腺特異抗原           |                                |                    |    |                                                                                        |
| PSA_F/T | PSA F/T比             | 26                             | %以上                |    |                                                                                        |
| HCV-RNA | HCV RNA 定量           | 検出せず                           |                    |    | C型肝炎ウイルス量をみる検査です。                                                                      |
| HBV-DNA | HBV DNA 定量           | 検出せず                           |                    |    | B型肝炎ウイルス量をみる検査です。                                                                      |